

キャリア教育で金融教育

～学校で社会で生きる力を養おう～

金融教育の現場レポート

「金融教育」は、社会の中で生きる力を育むことを目的として行われる教育です。

この「コーナー」では、金融教育の授業がどのように進められているか、教育現場に立つ先生や、授業を受ける生徒の姿をレポートします。

今回は、三重県津市立一身田中学校の「中川克巳教諭」が、

母校でもあるという同中学校で実践している金融教育の取り組みについてご紹介します。

学校のプログラムを地域社会で支える仕組みづくりから

「実社会で行動できる力こそ、今の教育に求められている」。中川教諭は津市教育委員会に在籍している時からずっと、その信念を持っていました。そこで注目していたのが、キャリア教育を研究している三重大学教育学部の山根栄次教授が開発したキャリア教育のプログラムです。しかし、平成16年度から試行的に数校に導入したものの、どの小中学校でも継続した取り組みにならなかったと言います。

その後、中川教諭は母校でもある津市立一身田中学校の教諭として教育現場に着任。自ら市内の教員に声を掛けてキャ

リア教育研究会を設立し、実践プログラムのテキスト作成に取り組みました。

一方、キャリア教育の実践にも一つ必要だったのが生徒と地域社会をつなぐ場を創造することでした。そこで、平成20年度に文部科学省が公募した「学校支援地域本部事業」に手を挙げ、学校・家庭・地域が一体となり地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えることを目的とした学校支援地域本部「サポーターいっちゅう」を組織。同窓生や

PTAなど一身田中学校に愛着のある人たちが声を掛け合い、教育活動に地域社会が参加する仕組みを実現していきました。

1年次から3年次までの一貫プログラムで実践

「社会に出ると、国語や英語、数学などが単独の能力として必要とされる場面はほとんどありません。教科を統合・横断した力が試される場、つまり実社会を経験できるプログラムが必要なんです」。キャリア教育の導入に当たり、中川教諭は他の先生にこう熱弁をふるったと言います。

キャリア教育支援プログラムは1年次「起業体験」、2年次「職業体験」、3年次「職場訪問」で構成され、すべてが「調べる」「体験する」「表現する」のプロセスを踏む、まさに実社会を学ぶ体験学習です。プログラム終了後は毎年「津市立一身田



三重県
津市立一身田中学校
中川克巳教諭

■1年生 起業教育のプログラム

- ① 分析カトレーニング
- ② 起業教育「会社をつくろう」
 - (1) 地域の特徴について考える
 - (2) 会社とは何か
 - (3) 市場調査・商品開発・試作品制作
 - (4) 試作品プレゼン
 - (5) 改良・製品生産
 - (6) 店舗飾りつけ・チラシ作成・接客練習
 - (7) 販売当日・決算
 - (8) 振り返り
- ③ インタビュースキル
- ④ 文章カトレーニング
- ⑤ プレゼンテーションスキル

■2年生 キャリア教育のプログラム

- ① キャリア教育への意識付け
- ② 自己理解
- ③ 職業理解・体験先の選択
- ④ 体験準備・体験のねらい・課題設定
- ⑤ 事前訪問
- ⑥ 危機対応・事前確認
- ⑦ 職業体験
- ⑧ 体験の深化・表現力・プレゼン力の育成
- ⑨ 金融・経済理解
- ⑩ 現代社会における諸問題
(市政に目を向ける)

■3年生 キャリア教育のプログラム

- ① 「修学旅行課題研修・企業訪問」の課題設定
- ② 職業の世界を研究しよう(職業理解)
- ③ 企業訪問での学習内容を整理しよう
- ④ 課題別研修の行動計画を立てよう
- ⑤ 取材に向けての準備をしよう
- ⑥ 企業訪問(体験)
- ⑦ 体験の深化・表現力・プレゼン力の育成
- ⑧ 金融・経済理解
- ⑨ 進路選択に向けて(学校訪問・体験入学)
- ⑩ 将来の夢について

中学校教育活動情報誌「未来創造・学びの城一中」を発行。学校関係者だけでなく、活動でお世話になった地域の人たち(企業)に向けて送付するこの情報誌がプログラム実践の「報告書」の役割を果たし、このプログラムへの地域の理解をさらに深めています。

「キャリア教育支援のポイントはリテラシーの追求です。そこを地域が支えてくれる。『サポーターいっちゅう』のメンバーに頼めば、電話ひとつで出前授業の講師を社長さんに交渉

してくれたり、生徒たちに職場体験をさせてくれるよう橋渡ししてくれる人がいる。こうした存在は大きいですよね」。

校内から校外へ。実社会を本気で学ぶ子どもたち

1年生の起業体験は「会社をつく

ろう」をテーマに、「地域を活性化する産業」をキーワードにした商品を作る会社を起業させ、地域の祭りに出店しています。学年で20チームほどの小グループを作り、優秀チームは毎年京都大学で行われる「バーチャルカンパニートレードフェア」に参加する、いわば学生起業コンテストの「全国大会」出場が目標です。津の伝統工芸品である伊勢木綿を使ったエコバッグ、海辺で拾った貝殻で作った携帯ストラップなど、毎年、生徒たちは「衰退している地域産業を盛り上げたい」「地域の特産品をもっと全国的にPRしたい」など課題を考え、企業の社長や店長



などから会社の仕組みを学び、さまざまな創造力を働かせて会社づくりにチャレンジしていきます。

起業に当たっては1人当たり1000円を出資する形で、大体8人のチームで1万円程度の粗利を出すとされています。「利益はがんばったご褒美」。一生懸命努力した結果、利益を生み出す苦しみと喜びを味わい、お金を稼ぐ意義を実感できるのが特徴です。

地域の祭りには家族や親戚までが集まり、店は満員御礼、商品はほぼ完売状態。生徒たち目当てに祭りに足を運ぶ人が増え、地域の活性化にもつながっています。

「生徒は同時に『人にはそれぞれ



市場調査を行い、事業計画を立て、試作品を作る



作った試作品とアイデアをプレゼンテーション



企業家の方の事業に対する具体的な意見をうかがう



大盛況だった「会社をつくろう」販売当日

役割・持ち味がある』ことを学びます。本番ではあまり出番がなかった子が、本番になるとテントを張ったり、販売をしたり、片付けをして会社に貢献することも多く、ぎくしゃくしていたチームワークが、祭りで一気に復活して成功裏に終わる。この実践は生徒全員に画一的な効果をもたらさなければならぬ教育ではなく、個々に役割を知り、人との関わりを通じて互いに認め合うことができるようになる効果もある」と中川教諭は実感しています。

テキストでも実践できる プログラムを完成

「このキャリア教育は総合的な学

習の時間を使い、年間18〜20時間のプログラムで行うのですが、それかなりの負担となり、指導側のスキルアップも課題でした。そのために研究会を組織し、プログラムの指導案から指導計画まで、すべての指導テキストを作成し先生方に提供しました」と中川教諭は言います。

研究会を作ったことで、中川教諭と目標を同じくする熱心な先生が集結。さまざまなアイデアを出し合い、内容を改訂しながら1冊のテキストに仕上がったのはつい最近のことでした(23年度版テキスト)。テキストでは平成22年度に教育研究会で実施した教育アンケートで一身田中学校の3年間の変化を紹介し、その教育



効果についても実証しています。

「授業が楽しかったかどうか」の質問で9割近くの生徒が『はい』と答えています。山根教授の言葉を借りれば、それだけでもプログラムは大成功。教師がやって楽しい授業は生徒も楽しい。これが教育の大原則ですから。この取り組みがもたらす効果が分かれば、きつともっと多くの先生に挑戦してもらえればいいです」。

テキストは津市内の全中学校に配付。キャリア教育部に参加する先生も増えてきたと言います。

そして中川教諭自身、「今後はもっと本格的に地元企業と連携して、子どもたちのアイデアが実際の商品開発に

つながるようなプログラムも考えたいですね」と、中学校発ベンチャー企業実現への夢をふくらませています。

■津市キャリア教育アンケート

	1年生 (%)	3年生 (%)		1年生 (%)	3年生 (%)
相手と自分の意見の違いが分かる			集団で行動するときに、自分の役割を考えることができる		
人と話をするときは自分の意見を分かりやすく伝えたいと思う			社会のために役立つ人間になりたいと思う		
相手の意見をしっかりと聞くことができる			目標を持って、部活動や習い事などに力を入れている		
新聞やニュースから、多様な情報に触れている			課題を解決する方法や手順を具体的に考えることができる		
職業には種類や特色があると思う			これからの進路の決め方について見通しを持っている		
自分のつきたい仕事の内容が分かっている			失敗すると、再度挑戦することができない		
自分の能力を発揮して仕事をするのが大切だと思う			将来の夢や希望を持ち、その実現を目指して努力することができる		

金融教育の現場レポート

キャリア教育で金融教育

～学校で社会で生きる力を養おう～

三重県

津市立一身田中学校 中川克巳教諭